

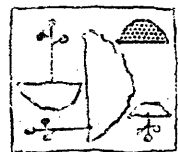
れます。この時の温度は80度以上に決してしないように注意しなければなりません。というのは80度以上ではVCが分解するからであります。さあここまでは無事に成功しました。お待ちどうさまです。失敗はこの次です。実際私もミルクの作り方など書いているとねむくなります。これも字数を規定にまでとどかすためです。

本当に今思い出しても残念でしかたありません。各クラスに分配する寸前でありました。一本の髪の毛が不幸にも私の頭から、私が熱心に失敗しないように、細心の注意をはらって作ったミルクの中に吸いこまれたのです。この時ほど心臓の音が大きくなったことはありません。あまりの事の重大さにおそれをなして、このまま誰にも言わないで、そのままにしておこうと思いました。

自分が栄養士を志さず者であるということは除いて、人間の本能でありましようか、その時始めて、このミルクを飲む五百名の子供を思い、その責任の重大さをひしひしと感じたのであります。そのことを思つたらぐずぐずはしてられません。私の全能力を出して一本の毛をミルクの中から探し出さなければなりません。いまだかつてこれほど真けんに物を探したことは決してありません。真剣な人間にアミダ様もお慈悲をかけてくださったのか、シヤクでくんで流し出したミルクの中に一本の毛が流れ出たのであります。私は細心の注意力をもつて巧みに拾い上げました。すると、どうしたことでございましょう、それは何と、ミルク入れの袋の縫い糸ではありませんか。つまり、私は錯覚を來たす程、この仕事に真剣に向い、少々神経質になつていたのであります。

もし私が将来栄養士になりましたなら、いえならなくてもこの時の感激は一生おぼえておこうと思つています。

## 保 健 所 実 習 を 終 え て



短食2の1 菅 原 千 種

私は5月24日より28日迄南保健所に於て栄養実習を行つた。だいぶ前のことなので感想といつても余り覚えていないが、我々が保健所の栄養士の仕事と言え、ただ単に料理講習で主婦に料理を教えたり、母親に子供の食事内容を教えたり等と思つていたが、も

もちろんそのことをも含み保健所内業務に於ける栄養士の果たす役割はいろんな方面のことをせねばならない。第一、母親に離乳の進め方を説明するとしても子供の体の健康状態との関連等医学部門や児童心理学的なことまで理解して居なければならないと思った。

24日には栄養士さんより明日行われる幼児栄養相談の説明があつた。何ヶ月の子供にはこんな食物をどういう状態で与えたらよいとか、こういう場合こんな処置をとるべきだ等と教えてもらい、又、私も特調で習つたことをメモしていつたが、いざ相談の場にのぞみ二・三人の母親達と対談をやつてみたわけだが、私の乏しい知識ではとうていだめならしく、いずれの母親も私の問に対し不適格な答えをし、私がそれではだめだからこうして下さいといつても、いいえこのことはそんなことすると口から出してしまいます、と頭から否定されたりした。それで次の言葉が続かなくなり最後はいつも横にいる栄養士さんが引きうけてくれた。やはり栄養士さんと話している時は、大変素直に聞いていた。横で聞いていて、なる程と感心する位上手に話を運んでいく栄養士さんが羨ましかつた。

その反面、本に書かれているのと同じ様な離乳の進め方をしている母親もあり、その時は話がスムーズに進み、大変うれしかつた。

人との対話に馴れていないことと、自分の言っていることに確信がもてず、こうすればいいと思いますけどと、あいまいな受け答えをしたりしたことが失敗の原因といえる。たえず冷や汗の連続で今でもあの時はつらかつたな、なんて思い出す。その他、一週間を通じ料理講習会に行つたり、下水処理場を見学したり、衛生面での説明を聞いたり、いろんなことをやつたわけだが、保健所に於ける実習で思つたことは、この職場では他の職場と異なり対人関係がどうのこうのという様なことはないが栄養士としては対象が広範囲にわたる地区住民なので、栄養相談にしろ、他の物を行うにしても一人でも多くの人に関心を持つて集まる様な公報活動をする事が一番大切だと思つた。それには、たえずみんなの中にとけこみ気軽に話せる様な雰囲気にする様努力が払われるべきだと思つた。

